

◆今期間のポイント

<主要じょう乱の概要>

- 20日は、日本のはるか東の高気圧の周りを回る湿った空気が本州付近に流れ込む。
- 21日は、高気圧が千島近海へ移動する。東・西日本付近にのびる前線上を低気圧が東へ進む。
- 22日は、高気圧が千島近海で強まる。低気圧は日本の東に進み前線が奄美地方付近に南下する。
- 23日は、高気圧は日本の東へ移動し、大陸から西日本付近に前線がのびる。
- 24日は、低気圧が日本海北部に進み、前線が東シナ海から本州の南岸にのびる。

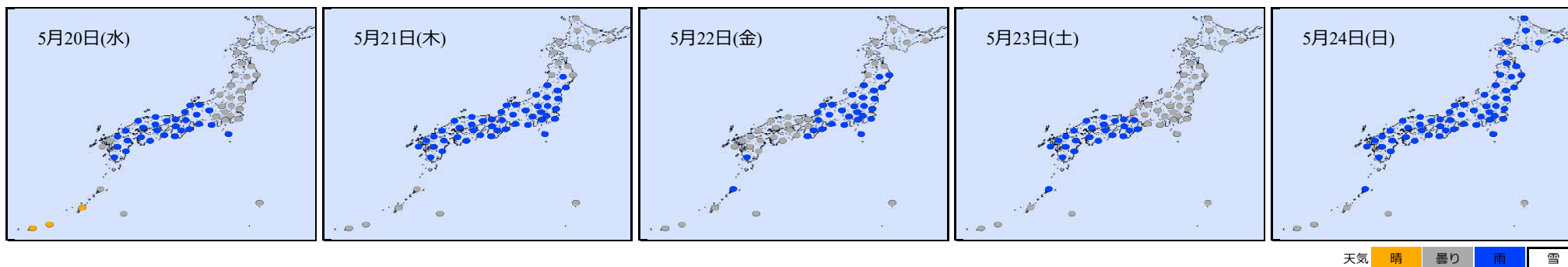
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- なし。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

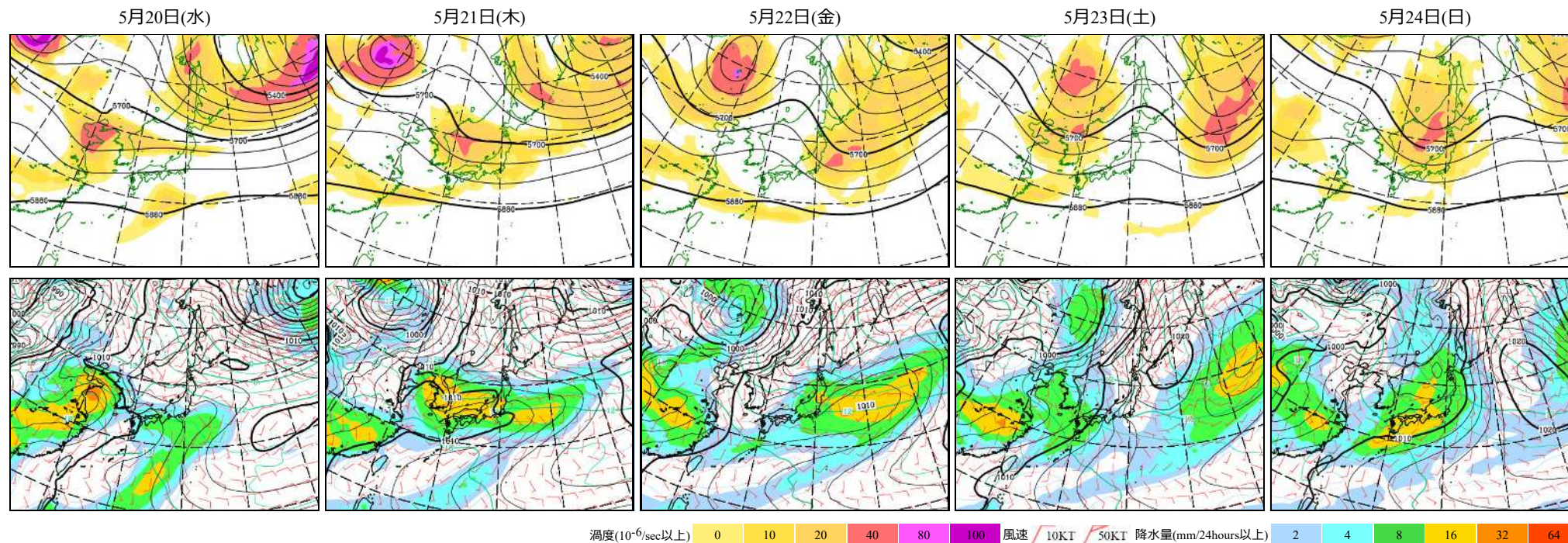
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

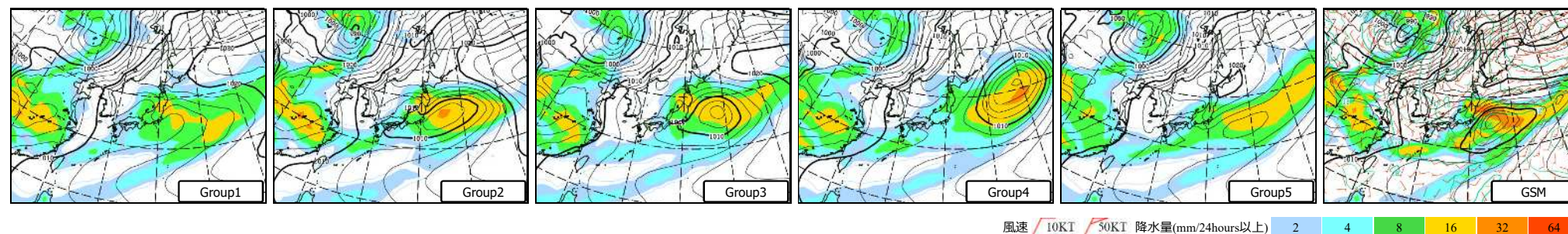


- 北海道地方は、雲が広がりやすく24日は雨の降る所が多い。
- 東北地方、東日本、西日本は、曇りや雨の降る日が多い。
- 沖縄・奄美は、雲が広がりやすく雨の降る所があるが、20日はおおむね晴れる。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆5月22日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、20日は日本のはるか東の高気圧の周りを回る湿った空気の本州付近への流れ込みが強まった。このため、20日は西日本を中心に降水確率ガイダンスの値が大きくなった。また、21日から22日にかけて本州南岸を東へ進む低気圧の進みが遅くなった。このため、22日は東北地方から東日本を中心に降水確率ガイダンスの値が大きくなった。
- スプレッドは比較的小さいが、期間の後半に特定高度線のばらつきが見られる。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。